**福津における遥拝**

沖ノ島は、福津・宗像沖にある聖なる島です。上陸できるのは、ここへ仕える一握りの神官に限られています。島と沖津宮神社に祀られている神の参拝者は、遠方から参拝(遥拝)をしなければなりません。

遥拝は、福津を含む宗像地域で広く行われています。宗像地域では、宗像三女神 (辺津宮、中津宮、沖津宮に祀られています) が数千年にわたって崇められてきました。いくつかの遥拝所には建物があるものの、福津一帯の多くの遥拝所は、山腹や浜辺にある単に見晴らしのよい場所です。福津には、手光という集落や白石浜などに、いくつかの遥拝所があります。

20世紀半ばまでは、田植えの終了時に、沖ノ島の神々を崇める儀式が広く行われていました。人々は、遥拝所で食べ物と酒を供え、田植えの成功を感謝し、豊作や豊漁と健康を祈ったのでしょう。これらの正式な儀式は今では一般的ではなくなってしまいましたが、今でも須賀神社で行われており、地域の人々が参拝に訪れています。